

俳諧天爾波抄

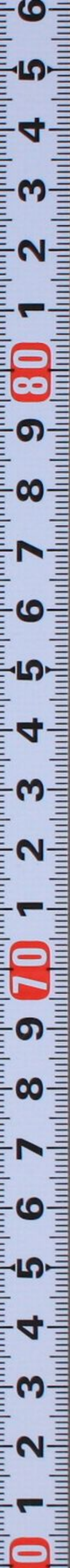
一二

中村俊定文庫

文庫 18

742

1



景

俳諧天雨波抄序  
夫聲者皆其物形理之所  
相摩而生者也形理之所  
相摩故又有物与生焉聲  
物是也民之言語者物感  
于心而意崩焉意所結者

景

景

示物也是以借聲物之所  
類以貌其意是其言語之  
所由發也古之言語其用  
聲物精與其意象適矣是  
以其言簡而旨深矣今之  
言語不論適否而逐俗習

其聲之所用率皆不能与  
物切也補苴以周之故其  
言繁而旨亦淺矣是古今  
之別夷夏之所同者也是  
故晚世之以其辭倣古者  
率亦皆準厚於薄儕賢於

庸甚者訛白為黑譬猶力  
微而運重不取敗於其旨  
者鮮矣亡弟成章用力於  
倭歌思救世之流弊其所  
嘗著者有插頭脚結二抄其  
子成元纂先緒而益又宣

明其義也以夫俳歌亦出  
於倭歌之支流故間嘗廣  
其先達之良規而以辨今  
副書之訛習著之為俳諧  
天爾波抄亦猶以演乃父  
之所志也書成乞予言其













この折也。エル波とひねする事をさし。度与附与をさす。  
例とも。のせし。のら。菊句のつら。に。エル波の用切なるは  
菊句とあげ。これと并す。さ。用。か。か。これと。さ。り。附。本。書を  
ひ。さ。み。ん。の。と。さ。さ。し。か。み。な。の。さ。さ。し。か。

この折也。エル波とひねする事をさし。度与附与をさす。  
例とも。のせし。のら。菊句のつら。に。エル波の用切なるは  
菊句とあげ。これと并す。さ。用。か。か。これと。さ。り。附。本。書を  
ひ。さ。み。ん。の。と。さ。さ。し。か。み。な。の。さ。さ。し。か。

この折也。エル波とひねする事をさし。度与附与をさす。  
例とも。のせし。のら。菊句のつら。に。エル波の用切なるは  
菊句とあげ。これと并す。さ。用。か。か。これと。さ。り。附。本。書を  
ひ。さ。み。ん。の。と。さ。さ。し。か。み。な。の。さ。さ。し。か。

この折也。エル波とひねする事をさし。度与附与をさす。  
例とも。のせし。のら。菊句のつら。に。エル波の用切なるは  
菊句とあげ。これと并す。さ。用。か。か。これと。さ。り。附。本。書を  
ひ。さ。み。ん。の。と。さ。さ。し。か。み。な。の。さ。さ。し。か。

この折也。エル波とひねする事をさし。度与附与をさす。  
例とも。のせし。のら。菊句のつら。に。エル波の用切なるは  
菊句とあげ。これと并す。さ。用。か。か。これと。さ。り。附。本。書を  
ひ。さ。み。ん。の。と。さ。さ。し。か。み。な。の。さ。さ。し。か。

うらやまの心と海はしるべしとて上蕉翁の腹とみんぞか  
かろし

文化三年丙寅夏日

浦井有國 識

目錄

五属第一

詠属

や

よ

ふ

疑属

う

や

詭属

よ

や

ね

禁属

ふ

ふ  
何ぞ

十九家第二

曾家

が

こそ

乎家

を

まの  
い

波家 毛家 仁家 止家 志家 乃家 邊家 良家 能義家 陀尔家 余利家

ろ も り じ も の へ ら の ぎ

ば ゑ ほ じ ゑ ぢ ぢ

ゆ え ぢ

目ノ  
一

那牟家 基登家 毛天家 加保家 那加良家 加天良家 丁倫 不倫 將倫

六倫第三

かん ごと ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ

け り り り り り

て ぢ

有倫

あり

れ

る

去倫

なり

り

る

来倫

き

り

る

十二身第四

氏身

て

り

る

之身

し

り

る

呼利身

り

り

る

那利身

り

り

る

由久身

り

り

る

阿不身

り

り

る

也苗身

や

加奴身

ぬ

被身

る

らる

令身

寸

む

為身

寸

如身

ご

八隊第五

義隊

こ

こ

久隊

く

介隊

け

加之隊

け

奈倍隊

ふ

母乃隊  
 八多隊  
 加天隊

この  
 ぞ  
 が

以上

右の部は、口が父成車のおやひ折の部かゝりて、その  
 種姓をくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 りあるものを部とせしむべきなり。其形の如く、くくくく  
 々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
 事々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
 もんまもんまもんまもんまもんまもんまもんまもんまもん  
 一々々々の河は、あやむくくくくくくくくくくくくくくく

活物なふむつうごふふふふ。これら口が部員とする所から  
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 なるを補つて、その部員を補つて、此部を果して  
 みざつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 なるのよきなり。其の部員をくくくくくくくくくくくくく  
 の部員をくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく



俳諧天尔波鈔卷之一

北邊大人口授

浦井有國 筆受



○五屬

コノ属家倫身隊ト五門ニワケタルハ脚結杵ノ  
大規模ニシテ古来人ノ弁ゼガル所也妻ウハ杵ニアリ

○詠属上

詠ニシテ世ノ又歌息ナリ元河ノ歌息ナリ  
おとる物なまじいこと又歌息をひねる  
河一属とせんかゝる也

也

也ニシテ也トシテ内ノ也ハ他カクモ也トシテ也  
あゝとる事と心ひき天尔波也そのあゝとるあゝとる





か...の時...これ他の物...  
等...守...吉人天...  
ふる...事...

冬日 岡寄や矢網の...れ...杜園

前句 吉置の馬乃...馬井へ  
コノ橋ノ長キニ退屈シタル心ニ見テ、即人ノ心ヲ活カ  
シタル附ザナリ、コレ猿蓑ノ序ニ晋子ガ入魂トイハル  
所ノツケヤウナリ、委シクハソノ序ノ注ニイハル

猿蓑 文月や...の...芭蕉

ぬ...の...  
例が...  
上...  
一...日

か...か...

猿蓑 廣澤や...の...史邦

日 柳...の...曾良

炭俵 柳...の...丈草

日 を...の...土芳

日 春...の...里東

春日 古...の...小巖

芭蕉

か...  
か...  
か...  
か...



瓢 疇道やま〜る疇の角大師 正秀  
荒野 員外 ま〜るびや晒と買のい夜をよめて 冬文  
 みの日やみ〜るに涙のてあつけ〜 荷弓  
 遠隔やほ〜るさす 喇と〜り 龜洞  
 猿蓑 木〜〜や頬腫れむ人の〜後 芭蕉  
 下事やち〜い〜る乃とふ所雨 凡兆  
 製判や一夜よ〜るび〜る五月雨 月  
 日の苗や夢か〜すく五月雨 芭蕉  
 炭俵 ま〜るびや定家机のあり所 杉風  
 竹のまや吹の嵐よ〜るの〜り〜き 嵐雪  
 名月や掃〜り〜るす春の虚 去来  
 朔は月やあ〜る〜る鏡みりす川つ垣 芭蕉

秋のまやか〜るびの秋あ〜る〜る 木白  
 寒菊や杉橋の〜る白の〜る 芭蕉  
 庭のまや巨燈が〜るの〜るあ〜る〜ら 其角  
 日のうげや〜る〜るの上の親 雀 涂頑  
 山が〜るや宇治の橋あ〜るの〜る〜る時 芭蕉  
 螢火や〜る〜る〜る〜る〜る〜る時 去来  
 紫のまや苔ま〜る〜る〜る〜る〜る時 史邦  
 か〜る草やあ〜る〜る〜る〜る〜る〜る時 朝 鳥 其角  
 ま〜るあや松のま〜る〜る〜る〜る〜る時 去来  
 園の〜るや菓を〜る〜る〜る〜る〜る時 芭蕉  
 振舞や下座〜る〜る〜る〜る〜る時 去来  
 あ〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る時 凡兆

日 芭蕉  
 日 市隱  
 日 其角  
 日 壯年  
 日 露川  
 日 芭蕉  
 日 月  
 日 里圓  
 日 万平  
 日 風國  
 日 歌草  
 日 芭蕉  
 日 松茸や〜〜ちあ紫のへをりけく

日 竹戸  
 日 智月  
 日 里東  
 日 野放  
 日 芭蕉  
 日 月  
 日 其角  
 日 圓吟  
 日 日友  
 日 園指  
 日 風斤  
 日 我峯  
 日 炭俵  
 日 えりや 墨所かか 猫の五器  
 日 ひびりや 雨や〜〜ぬ 花のうら  
 日 世中や 年負を〜けの 芥子の花  
 日 しんや 門を〜ら〜く 豆腐賣  
 日 尊や 竹のま 母を〜を おく  
 日 うの花や〜〜き 柳のを〜び〜し  
 日 ち〜りや 傘を〜つける 小人形  
 日 月聖や ち〜り〜は 十々 俵  
 日 の〜〜 船や〜〜れ 時 秋の雨  
 日 紫〜りや 出〜〜け 面 いく〜らり  
 日 ち〜〜〜 や 背中〜〜〜 牛の毛  
 日 草のそや 足〜〜〜〜〜と〜〜〜寸

續 後叢

炭俵

續 後叢

日 日 日 日 日 日 日 日 日 日

村のふやあめがくる菊のふあ  
 ひとつふまやひく葉くのふさのふれ  
 晴鈴やうららの味ある竿一のふれ  
 ころろやや犬の土りく爪のふれ  
鬮藤ノ能ニタル画ノ賛  
 いる妻やうららの所がすくらの穂  
 月かげや海のふきく長席下  
 昔のふやのころは動く秋の風  
 早き日や扇とりぞすふのほろり  
 花の目や湖のふきく川船  
 ころもやとくも若狭の白比丘尼  
 ちんちんやあまきくさるふくきく  
 花ゆりや白やうららと実めくや

其角  
 文考  
 権丸  
 小銀  
 芭蕉  
 牧老  
 荷芳  
 下苔  
 葉拾  
 前川  
 素記  
 吉本

日 日 日 日 日 日 日 日 日 日

麦畑やあめがけくも秋まの甲  
 ねさげやや日傭ゆとゆく流内垣  
続  
懐 ころひやや柳のうらら萩のころ  
 藪崎や穂たふよとくも萩のむし  
 ころや木の下取くふれ花乃山  
 美守やたたたよひのく松の陰  
 出くくやあくれすむるき加帳  
 方のふやくけしとくもつれお  
 世のふややあれとくも若夫  
 二れ孫やさくく吹く心朝の鼻  
 ころもややうららくくる天川  
 ころもややあめが追する孫のく

野坡  
 利合  
 芭蕉  
 荊口  
 洞木  
 去来  
 許六  
 芭蕉  
 山崎  
 子珊  
 炭老  
 狐屋

炭俵

日

曰 名月や誰つゝか 歌すも 森の鳩 西堂

曰 さうしあや 花さくも 雨も 構 支保

いれし 後のや けりし 前のや なる 句と ちや せいし 句と

よりし 疑と みる 詠し みる 句と ありし 疑と みる 句と

の 人け 詠疑 けりし 例の けりし けりし けりし けりし けりし

けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし

けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし

けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし

けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし

けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし

けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし

けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし

曰 吉物のまぶれや 鯉のすゝと 新 一嘆

炭俵 木ぐりくわく 茶搦も 沙や 時身 芭蕉

續 徳菘 ちりの雨 土筆 ち長 短 園指

曰 門砂や ちけく 師ま 入あ けりし 里东

徳菘 ちりの雨 土筆 ち長 短 園指

荒野 ちりの雨 土筆 ち長 短 園指

ちりの雨 土筆 ち長 短 園指

ちりの雨 土筆 ち長 短 園指

ちりの雨 土筆 ち長 短 園指

ちりの雨 土筆 ち長 短 園指

ちりの雨 土筆 ち長 短 園指

ちりの雨 土筆 ち長 短 園指

ちりの雨 土筆 ち長 短 園指

ちりの雨 土筆 ち長 短 園指

ちりの雨 土筆 ち長 短 園指

ちりの雨 土筆 ち長 短 園指

オ二例の枝のやゝぬれぬはのやゝ田づらやおのり  
 カゞのいゝまのたのさゝる例にさゝるやゝづら  
 早えけしらの例の「のさゝるや」や「まのたのさゝる」例は  
 かゝる「年」や「較」のさゝるやゝさゝるやゝさゝるやゝ  
 同例がさゝるやゝさゝるやゝさゝるやゝさゝるやゝ  
 けりゝさゝるやゝの「枝」や「さゝる」や「のさゝる」や「まのたのさゝる」  
 さのんちさゝるやゝ「のさゝる」や「さゝる」や「のさゝる」や「まのたのさゝる」  
 かりゝさゝるやゝの「さゝる」や「のさゝる」や「まのたのさゝる」  
 このさゝるやゝの「さゝる」や「のさゝる」や「まのたのさゝる」  
 句集 かゝるやゝさゝるやゝさゝるやゝさゝるやゝ  
 芭蕉  
 炭俵 枝らるや糸の光のぬれみさし 土芳  
 猿蓑 ちらるや猿蓑の蔭のすゝ 芭蕉

まゝの枝のやゝ物のかゝる例がさゝるやゝ  
 詞まゝのさゝるやゝの「さゝる」や「のさゝる」や「まのたのさゝる」  
 さゝるやゝの「さゝる」や「のさゝる」や「まのたのさゝる」  
 荒野員外 枝らるや糸の光のぬれみさし 汗六  
 日 ちらるや猿蓑の蔭のすゝ 杏雨  
 日 けりゝさゝるやゝの「枝」や「さゝる」や「のさゝる」や「まのたのさゝる」 荷多  
 日 自中さゝるや月を照り至巨燈 若草  
 日 みるさゝるや子持ひさゝる蔭のさ 谷水  
 日 涼さゝるや竹柳のゆく暮づら 半浅  
 日 ちらるや麻サキのさゝるやゝさゝるやゝ 惟我  
 日 ちらるや蝶の蔭の石のすゝ 瓜畦

炭俵

すべしや厚海のこのきこくへ

去来

春日

まはるやんきらぐみの伊勢あり

行号

荒野

あしやや海原さかき一花のそ

故人

日

ねづらや中門のあけく施儀鬼棚

荷号

日

我等或が宿しあはるや今朝の春

貞室

日

〇まはるあはる例さめぬ初やどかきやと

やと

日

ふもおほふふれは得とて目

芭蕉

後叢

任つらぬ旅のこころや並目燈

芭蕉

炭俵

梅よ人のとまわやあつぐす

文章

荒野

うたのあふれやどりや梅の花

芭蕉

後叢

梅よ人のとまわやあつぐす

文章

日

梅よ人のとまわやあつぐす

文章

炭俵

廉のつむあやさるもの躬恒形

素乳

荒野

うぐりすのまろや餅拾ふ片のま

去来

後叢

ねづらや中門のあけく施儀鬼棚

荷号

日

わらわはなや湖のうのこく濁

文章

日

山さのらりやまおあや峰の月

宗此

日

目礼よあまあすぶや石れ上

正秀

日

このはのねのゆひはや神一は純

野坡

日

晴の電よこまやふとま

其角

日

さやうる花中飯米五十石

桃首

日

早福あはらつらつぎりや小百姓

乃就

日

ふもおほふふれは得とて目

芭蕉

炭俵

梅よ人のとまわやあつぐす

文章



日

食の時ふかあ川にるや山ざく

雪夜

後葛

くろもき代なろや井くじり

云来

日

入相のしげの中や

羽紅

続  
後葛

らう猫のうけ出す朝や夕の月

文章

炭俵

さざりぬのまや淡川大木川

柘藤

日

おちろまき魚をこるや橋がり

利牛

日

十おのまきりや睦月の古手賣

之さ

日

雀よりやすふ姿や衣く

雪笠

日

花づくきとくぐりや村まじ

雪童

日

目下も申の初や三一の時宜

狐屋

日

つらやゆや廣の角

沢雄

後葛  
猿蓑

人のまきとくぐりや橋海苔

杖峯

日

ひざりあき中の拍子や維のき

芭蕉

日

禪寺のねの屋敷や林を月

凡兆

日

あくやのど塔くわりのこまき

誠人

日

まゆみくさるはや扇のむ

芭蕉

日

引けくちやまゆみのこまき

ま来

日

復のあとすけけすや戻るまじり

史邦

日

思がよのまのまじりやわらなま

土芳

日

さう所まよまじりやるる川橋

乙州

日

さうけくくちや柱のまじり穴

洞本

日

櫛のまじりまじりまじり花の中

如枝

日

初冬のまじりや馬の鼻まじり

利牛

日

唐黍まじりまじりまじり

西堂

日 さるのふるはしーの暮やニニト 子淵

日 身のゆくやけはのるや風の末 徳雅

日 雲の雨のゆくやーふあつら 仙花

○まきせづーき例がらん

白集 きの月所時よりぞー 赤松や 芭蕉

くわりのゆくよあなまのゆくはるの月や

舟時よりぞー暮夜にーのゆくはるの月や

きの月のゆくはるの月や 新集より

のゆくはるの月や 新集より

のゆくはるの月や 新集より

のゆくはるの月や 新集より

のゆくはるの月や 新集より

このまきせづーき例がらん

荒野 員外 山川や霧のゆくはるの月や 落梧

日 きの月所時よりぞー 赤松や 舟泉

続 椽葺 きの月所時よりぞー 赤松や 酒堂

春日 きの月所時よりぞー 赤松や 羽紅

きの月所時よりぞー 赤松や

きの月所時よりぞー 赤松や

きの月所時よりぞー 赤松や

きの月所時よりぞー 赤松や

きの月所時よりぞー 赤松や

きの月所時よりぞー 赤松や

きの月所時よりぞー 赤松や

きの月所時よりぞー 赤松や

きの月所時よりぞー 赤松や

きの月所時よりぞー 赤松や

きの月所時よりぞー 赤松や





とくくはりやまのり 杖トハる門ウチウチノドニフ泊ノ名ナリ  
スレクハ脚結抄ニ見エタリ

荒野 わしけりや車 夢はむの時 茂草

日 なりくちるきりひるやぶるの原 且草

後葦 つまがや沖のさざめく吉帆片帆 吉集

荒野 家々々のほろほろびや月のしげ 市柳

日 あぶるや今もあきくわしむき 傘下

日 三都やどあよのばうやぼくき 一夜

日 輝燭のひかりにくやぞくき 山人

日 つらぐやあきくわの夜這星 一笑

日 何れももろきくやふいの月 一泉

日 冷しや灯のころえの朝 后藤

日 剛くしきくふ門とがりくち 柳奴

日 白芥のくろくろのや葉のしるしの 嵐菊

日 ちりくち麻くろあきのをせ 山人

日 続 とびくちまきくわくわくやうの月 山峰

日 待宵の月くちゆくやまを花御 景桃

日 村はむむ日初まかやひし雨 野萩

日 ちりくちのちんやは敵の前後 犬州

日 荒野 舌の唇くちまきくわのや寺の梅 荊口

日 のくちやまきくわの衣ごりく 一井

日 春日 ぬくちやばの畫乃のまごふ 荷子

日 炭俵 瓦くち家くちやりくち秋の月 野水

日 後葦 村寺くちまきくわのやつくちまき 荊口

日 後葦 心くちやりくちやひのまき 史邦

日 さゆりー サヨリ さあ家の隣りの一でんれ 曾良  
 炭俵 瓜 カボチャ ゝ 瓜ヲリ 蔓ノイイカトナカサト 瓜 カボチャ 平一 平一 菊 キク 志流  
 瓢 もいのみぬまひりー イサナ 瓜 カボチャ 瓜 カボチャ の草 治順  
 日 ぐー カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ の草 カボチャ 荷子  
荒野 員外 の カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ の草 カボチャ 荷子  
 春日 ぬ カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ の草 カボチャ 荷子  
徒 猿蓑 母方の故ゆー カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ の草 カボチャ 荷子  
 日 枯のびる カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ の草 カボチャ 荷子  
荒野 員外 雨 カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ の草 カボチャ 荷子  
 炭俵 ぐー カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ の草 カボチャ 荷子  
 かー カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ の草 カボチャ 荷子

すまー カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ の草 カボチャ 荷子  
 し カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ の草 カボチャ 荷子  
荒野 員外 志 カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ の草 カボチャ 荷子  
荒野 員外 の カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ の草 カボチャ 荷子  
 又 カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ の草 カボチャ 荷子  
あゝ カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ の草 カボチャ 荷子  
あゝ カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ の草 カボチャ 荷子  
 この カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ の草 カボチャ 荷子  
枕草子 カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ 眉 カボチャ の草 カボチャ 荷子  
 ○第三例 中の中

ついでに...の傍に...の...  
さかすま...の...と名は...俗に...ナニヤヤ  
ナニヤヤ...の...ナニヤヤ...の...  
ナニヤヤ...の...の...の...  
ついでに...は...を...と...  
花...の...の...  
...の...  
...の...  
...の...  
...の...  
...の...  
...の...

日 荒野

あつちとれ氣のついでに

堂五

日 夏外

耳や湯やよくと

野水

日 続 後叢

森の幟すざりて

乙刈

日 荒野 夏外

声おとつて

昔菘

日 炭俵

はがくく瓜や

且菘

日 炭俵

サ刺や

刺半

右の...サ刺や...

ねみど...

○第四例 末のヤトニ

これとよや...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

そりしり文章のふりまはせしむる也

よ  
こりしり文章のふりまはせしむる也  
馬のやりの馬よのまはよの柳のやのまはなり。五十音ニヨリテヤ  
ト計トハ真反ナル  
フシル  
おもしろく奇しき事ありてはこそ  
人のなまはるる事ありてはこそ俗世よりヨクとせしむる事ありてはこそ  
のまはりてはこそ俗世よりヨクとせしむる事ありてはこそ俗世よりヨクとせしむる事ありてはこそ  
まよふ事ありてはこそ俗世よりヨクとせしむる事ありてはこそ俗世よりヨクとせしむる事ありてはこそ  
おもしろく奇しき事ありてはこそ俗世よりヨクとせしむる事ありてはこそ俗世よりヨクとせしむる事ありてはこそ

荒 ちる花を酒やする人よ 舟良

けのふりしれはる時をよのまはりてはこそ俗世よりヨクとせしむる事ありてはこそ俗世よりヨクとせしむる事ありてはこそ  
まよふ事ありてはこそ俗世よりヨクとせしむる事ありてはこそ俗世よりヨクとせしむる事ありてはこそ俗世よりヨクとせしむる事ありてはこそ  
おもしろく奇しき事ありてはこそ俗世よりヨクとせしむる事ありてはこそ俗世よりヨクとせしむる事ありてはこそ俗世よりヨクとせしむる事ありてはこそ

懐 百合のわりの花の枝よ計を月 嵐  
炭 ちりしりの花のひんぎるまの月 利半  
日 七葉の相よ三月の月 龜石  
日 息災の祖父の白髪の色をよ 成水





~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

か

これを「か」するが「か」するものなり。又「か」するものは「か」す。又「か」するものは「か」す。

希有か

「希有か」の語は「か」するものなり。又「か」するものは「か」す。又「か」するものは「か」す。

詞ニテ下ノ禁属ニ出セリ。又メウサウナナドイフハ、  
トイフ詞ノ入ハ、フカリタルニテ、コレトハ別ナルヲ知セシム。

他の「か」するものなり。又「か」するものは「か」す。又「か」するものは「か」す。

「か」するものなり。又「か」するものは「か」す。又「か」するものは「か」す。

「か」するものなり。又「か」するものは「か」す。又「か」するものは「か」す。

「か」するものなり。又「か」するものは「か」す。又「か」するものは「か」す。

「か」するものなり。又「か」するものは「か」す。又「か」するものは「か」す。

「か」するものなり。又「か」するものは「か」す。又「か」するものは「か」す。

「か」するものなり。又「か」するものは「か」す。又「か」するものは「か」す。

「か」するものなり。又「か」するものは「か」す。又「か」するものは「か」す。

「か」するものなり。又「か」するものは「か」す。又「か」するものは「か」す。





俳諧天爾波抄 卷之二

○五屬下

○詠属下

歌にいく上古はかたのよき中昔よりかたよえ  
 本れりさる中昔よりかたの詠の解いふ詠の解いふれ  
 ころ上ちても詠も疑もいふころかたよえいふれ  
 もと疑よりいふれいふれいふれいふれいふれいふれ  
 ちいれいふれいふれいふれいふれいふれいふれ  
 といふれいふれいふれいふれいふれいふれいふれ  
 にもあれいふれいふれいふれいふれいふれいふれ  
 のいふれいふれいふれいふれいふれいふれいふれ





早蕨の自由の吐くよ。「ねむくぐ」の由を竹の葉の影に冬  
 かげの影にうつろひてゐるまじき影のうらみか。これ一むづらふ。外が影の  
 うらみづらふ。又むづらふのうらみづらふ。

○第一例 藤の影トエ

猿	さけむし <small>神田祭</small> ひまの拍子のあはれ	数足
日	けむりのおひらきこゝれ福の秋	土芳
春	花より柳もさくさくつらなり夢死るんか	新人
月	帰のなほ茶碗のおもむきうれ	昌三
炭	月をげらるる月をなほほり	利平
荒	茶のむすそめいつつごよみうら	書展
日	衣く刃もさくさくさくさく	扇澤
日	け月のあはれ影にうつろひてゐるまじき	松芳

日 荷子が四十貫 いくまき 作子のまきよこゆり 重五  
 員 やくさかりさくはきさく 其角

まい荒野除けがうよ「あはれけいねい」の心づきのひらき  
 う。即この「あはれ」さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
 又鏡像サヤク。おは「ゆ」のん根にん日るん。これ世例あり。これ  
 らの「ゆ」子。ま。蕨のうらみ。林やちり。事さくさく。師のまき。まき  
 犯さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
 師おはこれゆきさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
 が。蕨が金さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
 いろく。流組の教とさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく





くれどさつづく人を撫むこもさびしき時のさへ月かきする  
 こも情さへさへさへさへさへさへさへさへさへさへさへ  
 くらむ目もさへさへさへさへさへさへさへさへさへさへ  
 こ人の目もさへさへさへさへさへさへさへさへさへさへ  
 めさへさへさへさへさへさへさへさへさへさへさへ  
 やさしきさへさへさへさへさへさへさへさへさへさへ  
 新の況と今侍あさへ  
 以下皆一ヲ以テ下ノ哉  
 打合ヲシラセタリ

春 若竹のうらさへさへさへさへさへさへさへさへさへ  
 幕たれ微雨さへさへさへさへさへさへさへさへさへ  
 先ゆきさへさへさへさへさへさへさへさへさへさへ  
 山畑の茶摘さへさへさへさへさへさへさへさへさへ  
 重五

月 朔日ニか柳のうらさへさへさへさへさへさへさへさへ  
 集 初まのき里中のかさへさへさへさへさへさへさへ  
 日 晝さへさへさへさへさへさへさへさへさへさへ  
 春 あささへさへさへさへさへさへさへさへさへさへ  
 日 傘さへさへさへさへさへさへさへさへさへさへ  
 日 房ゆめさへさへさへさへさへさへさへさへさへさへ  
 日 芹摘さへさへさへさへさへさへさへさへさへさへ  
 日 生朝あがるさへさへさへさへさへさへさへさへさへ  
 日 ちりさへさへさへさへさへさへさへさへさへさへさへ  
 日 浅淡の大根あさ月夜か  
 後仙

日 日 日 日 日 日 日 日 日 日

日 月 夕 暮 月 夜

我 け け け け け け け け け け

け け け け け け け け け け

送菊

秋 け け け け け け け け け け

い け け け け け け け け け け

け け け け け け け け け け

夕 け け け け け け け け け け

業 け け け け け け け け け け

木 け け け け け け け け け け

馬 け け け け け け け け け け

け け け け け け け け け け

け け け け け け け け け け

花柳

素秋

智月

野水

釣巻

昌長

洞香

杏雨

重治

一奴

一井

夜香

日 日 日 日 日 日 日 日 日 日

高 夕 上 柳 夕 夕 夕 夕 夕 夕

夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

一香

一井

一奴

一井

一奴

一奴

一奴

一奴

一奴

一奴

一奴

一奴

日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日

あゝ後の婦り 花の部 一ふ  
新田 了 稗 鼓 々 々 一 一 一 一 一 一 一 一  
野馬 一 子 佐 あり 一 一 一 一 一 一 一 一  
呼 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
乳 の 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
あ か び 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
船 の 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
炭 焼 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
茨 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
腰 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
や 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
藤 の 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

元兆 昌房 元兆 尚白 日 芭蕉 玄虎 玄徳 西堂 魚目 残香

日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日

積 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
夕 浪 の 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
こ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
こ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
細 工 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
竹 の 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
い 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
あ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
病 僧 の 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
猿 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
不 川 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
美 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

卓袋 新屋 木部 柳枝 隨友 可誠 里圃 畦止 曾良 沾圃 園指 卓袋

日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日

のざり帆の法踏ふれぬひ子か  
一株の牡丹をさき口のきふふ  
菊畠奥ある要方のくゆり外  
秋のくれいよくかきくらすあか  
一枝とまげりか竹の若葉か  
抱りかきくものさぶりたる花やか  
藤宗祇池上連あるんり神  
こゆりかきくかけり柳か  
傘かたけりか柳か  
みぎねの礫をかきくか  
山吹も巴といひける因りか  
川中の根あよよりぶらりか

去来 尾頭 杉丸 荷子 仙花 斜花 去来 湖と 芭蕉 許六 芭蕉

日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日

新蕎麦の流の霧つむ雀うれ  
梅がさつりよりのあかぬか  
みぎくふ川花さすもみか  
の煙をさひくさすか  
眺つりよ命うらむ小船外  
氣相よれさあめあし外  
町中へさすか  
土ふふ羅ふりりか  
五人扶持とらふか  
おかりり月まぶるか  
しほふくさくさつむか  
き柳の泥とさすか

相実 芭蕉 普全 操生 為有 仙華 判牛 狐屋 吟破 仙花 曲琴 芭蕉

障子 一月のあびり子柳か 立就  
 四ツ五畧の掛くも花冠ごちか 芭蕉  
 栞ぐれ節ふらりよる 初日か 文亨  
 とぎけいも新よにらる青か 其角  
 うぐいすの春よ 初ゆくまゆか 柳隣  
 鶯よホウと息するけいさか 流石  
 鶴鶴の居くそけさの柳か 一風  
 さけくごも何例にく若のけの例なりみあ  
 せくごごごご  
 炭 わるごとごみくくごの甚ふ 忠准  
 日 人老て夜半をくるささか 以飛  
 日 困る侍所一のあつさふ 忠凡

続 鼻のかみゆむ 祖の若菜か 曲翠  
 かんのごごらるも若の例れごもねごごごみくく門一  
 まるは「困る侍早」何中心遊ごご上の何まは  
 けいさくごごごごごごごごごごごごごごごごごごご  
 何ごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごご  
 〇まごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごご  
 一何ごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごご  
 はせごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごご  
 炭 〇かごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごご  
 読 麦糠の録石の店のびんくれふ 行方  
 日 組人冬の根方のびんさむさ 信圃  
 荒 〇ごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごご  
 信徳

日 繞 日 猿 日 炭 春 炭 猿 日 繞 日

こが宿くどこやう村の雪のあけ  
とあけくくくくくくくくくくく  
掛の右乃五助くくくくくくく  
病馬の和さくくくくくくく  
うくくくくくくくくくくく  
山寺くくくくくくくくくく  
並をくくくくくくくくくく  
うのくくくくくくくくくく  
水庭をみくくくくくくく  
茶の湯くくくくくくくくく  
ナら夜くくくくくくくくく  
雪の原 葬 のみれ 雪 くりれ

宗和 業 如真 芭蕉 文州 越人 臥守 許ら 大草 亀茶 芭蕉 雪の原

炭 春 猿 日 繞 日 猿 日 炭 春 炭

第目くくくくくくくくくく  
腰くくくくくくくくくく  
けくくくくくくくくくく  
年切の光本くくくくくく  
ま 塔 くくくくくくくく  
木のくくくくくくくくく  
朧月くくくくくくくくく  
折一本くくくくくくくく  
藤の花くくくくくくくく  
くくくくくくくくくく  
彼岸くくくくくくくく  
枝長くくくくくくく

游刀 摩夕 其角 千川 野水 芭蕉 玄琴 露沾 越人 其角 踏通 湖春



○集あゝ「梅柳」ささる家心 草道、  
トニ定 亡父のあゝる 肺結抄に 家傳家創と 撰  
あゝる 家傳家創と 撰  
あゝる 家傳家創と 撰

○集あゝ「梅柳」ささる家心 草道、  
トニ定 亡父のあゝる 肺結抄に 家傳家創と 撰  
あゝる 家傳家創と 撰  
あゝる 家傳家創と 撰

員 月ノ柄と

員 月ノ柄と 金下

荒 あのおさ 芭蕉

○まゝに 月ノ柄と 金下  
あゝる 家傳家創と 撰  
あゝる 家傳家創と 撰  
あゝる 家傳家創と 撰

猿 小月ノ 鼻つゝ 九兆

炭 鬼のみ 如竹

日 このは 如竹



荒

あらぐ川よこに母みまきん

菰草

日

あまふさみちの神の馬を

胡又

日

あまふさみちの神の馬を

湍水

日

あまふさみちの神の馬を

芭蕉

日

あまふさみちの神の馬を

古雨

日

あまふさみちの神の馬を

野水

日

あまふさみちの神の馬を

心秀

日

あまふさみちの神の馬を

許六

日

あまふさみちの神の馬を

野水

日

あまふさみちの神の馬を

詠の何れ

日

あまふさみちの神の馬を

毛家の何れ

日

あまふさみちの神の馬を

毛家の何れ

麻の糸。名の糸。又畧例の糸。また。毛家の糸。何れ。

かり。よく。糸。と。結。ひ。の。け。何。れ。何。れ。行。な。ま。す。何。れ。

何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。

何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。

何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。

何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。

何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。

何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。

何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。

何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。

何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。

何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。

何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。何。れ。



例に於ては、  
一、

荒 不 秋 冬

冬  
羽  
秋  
不  
荒

三

羽 秋 冬 不 荒

不 荒  
秋 冬  
羽  
不 荒  
秋 冬  
羽

羽  
秋 冬  
不 荒  
秋 冬  
羽  
不 荒  
秋 冬  
羽



かき同ぢらりやかき同ぢらりやかき同ぢらりや

荒 奥山とありぬる 嶽より 岩の角 湯水

猿 千子ガウセヨリトす 今や 土用干 世蓮

この二白端水がうんちのやうなやうなみく 奥山と人たかしくぬるや  
つすしめぬるやうなやうなみく 嶽よりぬるやうなやうなみく  
てめは眼まはるやうなやうなみく 嶽よりぬるやうなやうなみく  
のらう 隠者の人の交りぬるやうなやうなみく 土用干すぬるやうなやうなみく  
カ衣指ぬるやうなやうなみく 嶽よりぬるやうなやうなみく  
小波のうらやうなやうなみく 嶽よりぬるやうなやうなみく  
もみぬるやうなやうなみく 嶽よりぬるやうなやうなみく  
やとらりぬるやうなやうなみく 嶽よりぬるやうなやうなみく

猿 赤色まらぶらり馬乃 吟 活破

日 馬どもい 寐ぬくあつた 余 雪の海 路を

冬 麦先くまやりの 嶽の 妻 世蓮

日 ひろく 曲侍の 局り 由侍の 杜園

日 あつと 碎りぬる 人の 骨の 何 日

日 夢の 夢ひく 人も 千二 ばら 野水

日 捨ぬる かくり 文書の ゆげ じ戸 羽筆

日 大鼓の ちり 階子 のが ちり 一日 傘下

後 日 傍す ちり 寺の かく ちり 九兆

日 世の 事一 介の け 最の け ちり 之道

日 床時 の 又 ちり 月の 初ま ちり 基角

後 日 床中 階の ちり ちり ちり 乙州

猿 後 日 床中 階の ちり ちり ちり 乙州



ちくばま所よ。これらも例の通り。しと申のうらまへ  
 スルト畧セヌト二例、  
 ナリ。脚結抄ヨミ監

兼	株	員	徒	集	口	日	日	株
ソモツ	天井	カク	いづ	きれん	ゆく	い	い	ま
ツ	ノ	マ	ク	ン	ク	シ	シ	ノ
ト	ハ	シ	シ	ク	ク	シ	シ	ノ
ツ	ハ	シ	シ	ク	ク	シ	シ	ノ
ト	ハ	シ	シ	ク	ク	シ	シ	ノ
ツ	ハ	シ	シ	ク	ク	シ	シ	ノ
ト	ハ	シ	シ	ク	ク	シ	シ	ノ

○又此の例は、例の通り。しと申のうらまへ  
 〇又此の例は、例の通り。しと申のうらまへ

○又此の例は、例の通り。しと申のうらまへ  
 〇又此の例は、例の通り。しと申のうらまへ

徒	炭	日	員	兼	日	統
内	若	盆	柳	一	つ	名
花	月	の	の	年	花	月
頭	の	月	の	の	の	の
し	の	の	の	の	の	の
し	の	の	の	の	の	の
し	の	の	の	の	の	の
し	の	の	の	の	の	の

〇又此の例は、例の通り。しと申のうらまへ  
 〇又此の例は、例の通り。しと申のうらまへ





や
 上より下へ... 下より上へ... 上より下へ... 下より上へ...

炭  
 こげくろく茶搦とまや時き 芭蕉

この句意ゆく茶搦と三月の柳より... 下より上へ...

続	曰	荒	曰	続	員	冬	猿	曰
よしの雨とるや土筆のむね	うねとる	すどく	埋火とす <small>人ノ進善ニ</small> や	夕やきは	まじ	初ものせ	山け	ぶ
周指	杉風	其角	芭蕉	水路	野水	杜回	智月	路通

こけくろく茶搦と三月の柳より... 下より上へ...

のよき... 花... 花... 花...

荒 蕨花のやみくろみるや 帰る花 昌志

此のナドハ... トイフベキヲ... 又例ナリ... トイフベシ... カハ又例ナリ... フナリ...

炭 響の 柵や 寺の 塔 依甫

コレハカトイフベキヲ... アヤニレルナリ

負 此のよきまじりや 夕月 行子

春 夕陽のあざや 軒の 雀 羽紅

棟 柳のたなごころ 鞠の 中五

続 春 春のしらたのあげ 中土 圃仙

荒 くらり... コレライツレモ... 八脚結拵...

○中の中... 上の中... くらり... コレライツレモ... 八脚結拵...

春 春のよきまじりや 夕月 行子

棟 柳のたなごころ 鞠の 中五

日 日... 焼致... 安国... 徳...

集 集... 徳...

続 続... 徳...

負 負... 徳...

員 員... 徳...

荒 日 日 日 春 拾 統 荒

おむらうやじうのまれまがらん  
くらしる暖南や冷んりのあ  
りんや塔さるるひりし  
小柑子栗やひりまねの同  
桐の葉やひらうぶ秋のせ  
とくち中れし枝ひしあま  
江懸ありやす富士の湖  
まの空やいづれのまうれん  
こけ中のやのりま例かり又思やる創か  
まびらかられぬものやあまの櫛  
まびらくそらや浮世の蝶 拂  
若月と梅のさかや田のくもり  
日 日 日 冬文 芭蕉 羽紅 芭蕉 冬文 舟泉 胡及 南原 日

二ノ世三

集 日 傍 日 日 日 日 日 日 日 日 日

梅白しきのつや樹を塗ま  
象酒の雨や西施が合歡の花  
山茶花とさるや雪のりり  
よしし傘かきや一町  
おづれ木の根やあ花の  
桶の輪やあわく海やむす  
大若やうしゆの奥のむの果  
一巾くわや身羽田のあま  
足跡のくさや奥の田植  
すれ草小沼あけり  
厚ゆくさや白子 若  
月のかりやあけり  
芭蕉 日 露 圃水 如雪 昌房 若良 之道 芭蕉 曲聚 芭蕉 冬文

春 炭 日 様 日 口 荒 日 統 日 荒 統

山やや花かまねくの酒ぶ平一  
 妻路の田植やおろかかきくか  
 ちの舞よりらくつけてや早むく  
 水を月のまはばねくら水の仙花  
 千子がらせケルサ  
 かんの小神のいまや土用于  
 今やまらの刀さし物すて  
 目やきく耳のかこるまの香  
 身既のあやあらのあら  
 門砂やどくの神の洗髪  
 おろかてやまらしるまの鬼の面  
 八專の雨やありまるまの産  
 妻のあらきやくらの女神系  
 行り

毒阿 許古 甚角 不王 甚甚 生糸 西武 如苦 里东 芥子 治圃

伏や

猿 日 荒 日 統 日 荒 日 統 集

この伏おりす程らの例なりきとしやりやりやり

ちりの竹田のさしやゆ時節  
 さしるまの大らば  
 足らびえんまの年の海  
 庭なりのさしやゆの鬼正なり  
 あけのまの衣が胸ずく  
 うの蔓や西瓜上の花の後後  
 甚甚やいのあらまのあり色  
此句ナドイト正シキツカヒ方ナリコレヲ以テモ上ニイハル義  
虫ウツクニヤトイフ白ノ誤ナルヲ思フベシ  
 一日はいきまずあらまのあらま  
 水鷄ならず人のいきまのあらま  
 芭蕉

乙州 望水 長虹 生糸 吹水 治圃 芭蕉

「くちや」ぬまをききしりし 他落しとせど 一斗水のてをわけても  
 なるしつしつしと思ふやうにわたりて ぢやニヨツテ 何んかたしつとて みる下  
 け合の河と重なるも ぢやニヨツとて なる也 なるも 何んかたしつとて 伊勢和  
 上「秋の日は暮らばるる」物か<sup>ぢやニヨツテ</sup>わたりて なるも なるも なるも なるも  
 さらさらの雨なり 古今集「雨はふるあまの泣き」<sup>ぢやニヨツテ</sup>なるも なるも なるも  
 赤合とともなる 例なり。なるも なるも なるも なるも

春

一夜うす名を馬こゝの寺<sup>ぢやニヨツテ</sup>なり

野水

前句「初」の女日くやを 去の形 羽笠 却ヨリハバヤ  
 ク表勢ヲツカフハ馬カフホドノ寺ナレバニヤトノ心ニテツ  
 タルナリ 後句ハ「心」の魂なるも 魂なるも 魂なるも 魂なるも  
 二月ニ竟祭ルトイフ。即ちなるも なるも なるも なるも

夏

砕<sup>ぢやニヨツテ</sup>がりのもれの... かなれや

傘下

前句「雨」の... 傘下 大の内へハイリテ  
 吠ルハ酔ガメノ水ノ飲タキ此ノ顔ノアヤシゲナレバニヤトノ心ニ  
 テツケタルナリ。後句「心」の魂なるも 魂なるも 魂なるも 魂なるも  
 コハ雨ノ降出ノツツカルニテなるも なるも なるも なるも

秋

ひびのりから 小田の土持の... かなれや

除煩

前句「か」とあ... 小田ニ土モウシナレバニヤトノ心ニ  
 ル笠ノアタラキガミユルハ小田ニ土モウシナレバニヤトノ心ニ  
 後句「心」の魂なるも 魂なるも 魂なるも 魂なるも  
 テ下サレタルハ田ニ土持ヲイハフ心ニテカトノ心ニテウケタル

冬

け道の... かなれや

其角

コレハコノ集ノ出来タルハコノ道ノ面目ヲオドコスベキ時  
 運ノイタリタレバニヤトノ心ニ

春

弓 固... かなれや

支浪

コレハ藤袴ノサキツルハ弓固トルはナレバニヤトノ心ニ

この... かなれや

二も... かなれや

やかり... かなれや

かり... かなれや

こ... かなれや

集

芭蕉

日

まゝのややあやまき山のあまき

日

この二句ともよしの句例のしらべに録むる俳句の例なり

やそ

これぞ何れもいかに味もあましく地くんのこゝろをこぼ  
せよと初上のかみのあまのうらみかゝりやそは可なりやの行かたも  
その最もかゝりソウデハナイと云を。やそはソウデハナイと云を  
するやこれ自れとやとかの句例に似たり。七部ゆら  
り例みよボ、されどよのうらみかゝりやそは可なりやの行かたも  
を古例のうらみかゝりやそは可なりやの行かたもを古例のうら  
みかゝりやの魂とたすべし

炭

かゝりやのうらみかゝりやの魂とたすべし

芭蕉

二ノ六六

やそ

これもやそに似たり。流るるも、それいふに似た  
やそに似たり。今てびとの事づきのあまのうらみかゝり  
り。これぞ何れもいかに味もあましく地くんのこゝろをこぼ  
せよと初上のかみのあまのうらみかゝりやそは可なりやの行かたも  
その最もかゝりソウデハナイと云を。やそはソウデハナイと云を  
するやこれ自れとやとかの句例に似たり。七部ゆら  
り例みよボ、されどよのうらみかゝりやそは可なりやの行かたも  
を古例のうらみかゝりやの魂とたすべし

一條院所々のけしきに似たり。やそは可なりやの行かたも



続 脊くくむゆしとやもやのち 空重  
 炭 とうぶけくともや 五月の辰のき 西き  
 日 とうりた影つが 葦まもつしむらや 利牛  
 集 さまなりしゆ 沙目の葉めぐもりや 芭蕉  
 右づりも 何とタライカニ何ナラ どのふもぬぞ切しや どのや那  
 してつとも ぬし 採属しつる 藤のぬや どのと 何とタライカニ何ナラ  
 どのぬいとも ぬし どのぬいとも ぬし どのぬいとも ぬし どのぬいとも ぬし

集 年の市 線香りのよ 出むや 芭蕉  
 荒 ぬきくかこつし どのもらぶらぬ 越人

もづか とうづか とうづか とうづか とうづか とうづか とうづか とうづか

ほうが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが  
 も例えぬきも 俳諧も とうづか 凡そ どのぬいとも ぬし どのぬいとも ぬし  
 の 飲んぶも ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが  
 と ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが  
 事とぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが  
 づか ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが  
 後世も ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが  
 セステのん ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが  
 ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが  
 ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが  
 ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが  
 ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが ぬまが



山のふもとにわがふるさとありて  
— ちかみのくにききかたのこころに  
ふあわだてのこころをいかに  
集

子母一 部一ゆしなまがが 芭蕉

てがぶ  
— ちかみのくにききかたのこころに  
ふあわだてのこころをいかに

あふみよのくにききかたのこころに  
ふあわだてのこころをいかに  
のちかみのくにききかたのこころに  
ふあわだてのこころをいかに  
たよりあてしてんてテチカウとまや  
テノ下ノ河ハコレニカギレルニハアラズ かげし河  
— ちかみのくにききかたのこころに  
ふあわだてのこころをいかに

そとがふとよきま、耳梨山の山抱子とく  
— ちかみのくにききかたのこころに  
ふあわだてのこころをいかに

ちかみのくにききかたのこころに  
ふあわだてのこころをいかに

ちかみのくにききかたのこころに  
ふあわだてのこころをいかに

ね  
— ちかみのくにききかたのこころに  
ふあわだてのこころをいかに



荒

うぐいすのすゝめ 菅 庵奉納 秋の林 亀田

こしにふ雲のわらひは 秋の林 秋の林 亀田

猿

うぐいすのすゝめ 菅 庵奉納 秋の林 亀田

菓

うぐいすのすゝめ 菅 庵奉納 秋の林 亀田

日

うぐいすのすゝめ 菅 庵奉納 秋の林 亀田

猿

うぐいすのすゝめ 菅 庵奉納 秋の林 亀田

荒

うぐいすのすゝめ 菅 庵奉納 秋の林 亀田

日

うぐいすのすゝめ 菅 庵奉納 秋の林 亀田

日

うぐいすのすゝめ 菅 庵奉納 秋の林 亀田

日

うぐいすのすゝめ 菅 庵奉納 秋の林 亀田

日

うぐいすのすゝめ 菅 庵奉納 秋の林 亀田

日

水あびよ 菅 庵奉納 秋の林 亀田

統

梳賣も 菅 庵奉納 秋の林 亀田

荒

粘り 菅 庵奉納 秋の林 亀田

日

きぬ 菅 庵奉納 秋の林 亀田

日

五 菅 庵奉納 秋の林 亀田

日

顔 菅 庵奉納 秋の林 亀田

日

酒 菅 庵奉納 秋の林 亀田

炭

あり 菅 庵奉納 秋の林 亀田

日

お 菅 庵奉納 秋の林 亀田

日

風の 菅 庵奉納 秋の林 亀田

春

前 菅 庵奉納 秋の林 亀田

前句「基おしと送るきんぐの月 野水コシ基イ  
ニノミアル心ヲオドロカシテ、おトイハルモノナリ

冬

員

日

日

日

日

日

日

日

日

日

嵩のなまよみよ包尾の鯛のそり 耕

うぐいす起よ 紙鳩とがして 芭蕉

前句「橋の上餅すやわかやかのうから 荷すこしハ 鶯ノ元旦トモシラズアル心ヲオドロカシタル心ナリ

かけびよりけよ看經の中 野水

前句「天仙夢よ冷食ありし其の香 荷すこしハ ヲ憚ル心モナキヲオドロカセルナリ

うらむねくうのやむの湖すみよ 越人

前句「名ものの湖のこころを風 日人コトスルヒ ニ一途ナルモノ心ヲオドロカシタルナリ

野を横し馬引むけよほしむけよ 芭蕉

ふいぶよりのびやがらの蟻の考 日

りくねびやがらの蟻の考 日

我月いでよふも ばら海から 杜四

前句「月をゆく 羽楽庵と世と後と 重五コトハ 口が身ノナリ出ル道後タルニナシ置テヨトハイハナリ

二ノ世二

や

このをいふやうに「おけやき」こやも人をかきよめるさむいなり

いのかうへ家なり。これども。やと五十三音の阿解あり。お解あり

て。その家相あり。お解あり。お解あり。お解あり。お解あり。お解あり

むすの物乃ワグあつて。お解あり。お解あり。お解あり。お解あり。お解あり

ナルコトヲ オモフベシ

荒

のうらむねくうのやむの湖すみよ 加生

これのうらむねくうのやむの湖すみよ 加生

かきよめるさむいなり。お解あり。お解あり。お解あり。お解あり。お解あり

荒 けり人のみよりのやと五十三音の阿解あり。お解あり。お解あり。お解あり。お解あり

続 ちりばねくうのやむの湖すみよ 馬の曲 九席

コレハ見ルオドロノ物ニテモナキヲ。レヒニノ ヲトハアツラヘタルコ、ロナリ



さける何なりと云ふべし。蘇のふく。ワグムの故にゆらぬ。あつた  
 むかふあつた。ねむらふあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 て。属く。わく。あつた。

○近昔よりあれが。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

拾 瓜はくさ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。 芭蕉

○誰さ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 下の衣エ解。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 にはあつた。

倭 り。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。 海晏

日 山人の。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。 桃妖

日 魚あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。 馬芝

猿 一月も。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。 夫草  
 日 の。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。 配力  
 日 弱法師。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。 其角  
 の。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。







かゝるもの持もさへし門のありに接するもびくすけんもの  
くるもの一司れあそんたあつたはるるるるるるるるるるるる  
ひる アカバハ飽バト赤葉トヲカケタリ  
がハ葉ニヨセテイヘルナリ りるるるるるるるるるるるる

そのさへ人のいそぎあつたけりるるるるるるるるるるるる  
ふらやぶるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

夕選 とうづりぬおれしうりるる 芭蕉

集 花よぬぶ転をくくぬ我友まぢり 曰  
有磯協 尼貞春が身ニカリケルトキニテ 教をくくぬおれしうりるる 曰

後 前しもしまの夜あまうるる 半残

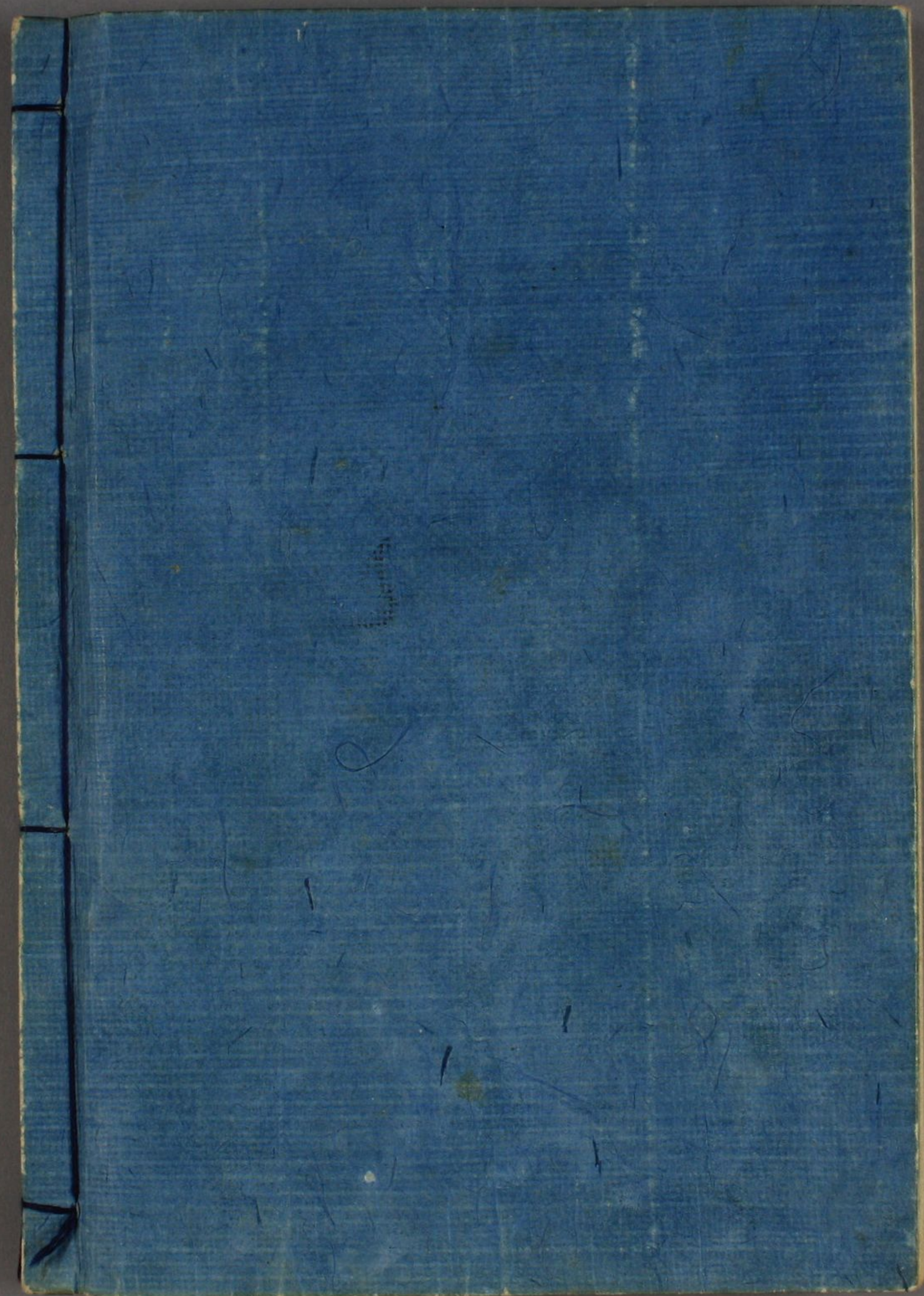
集 玉川のうらうらぶぢれうるるる 芭蕉

春 夕羽の傍の踊るるるる 冬

以上二例なりこのおのほまがやん

るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
どのおうらふはあつたはるるるるるるるるるるるるるるるる  
いなるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
後のさへ人のいそぎあつたけりるるるるるるるるるるるる  
りるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
〇おゆちゆち何おゆち何そまもゆち何かあるるるるるるる  
ゆちるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
つるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
よく勤慎努力のさへるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
のんかるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

俳諧天尔波抄卷之二終



北邊大人口授

南臺藏梓

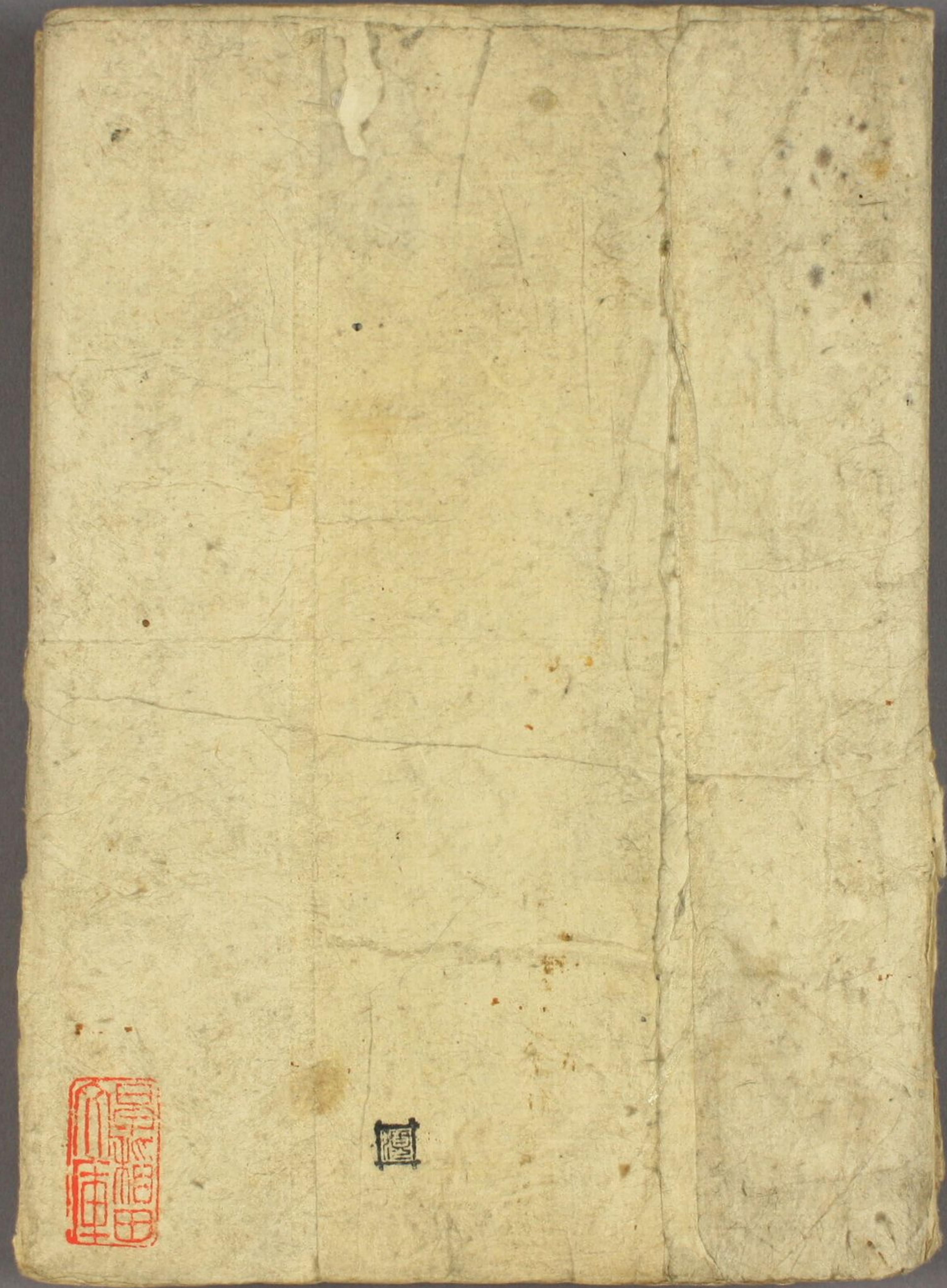
俳諧天爾波鈔

七部集句ニハ天爾波を部類  
天爾波の心得くろくを記す

皇都

懷玉堂叢

竹菴樓行



Red square seal impression with stylized Chinese characters, likely a collector's or publisher's mark.

Small, dark, square mark or stamp located near the bottom center of the cover.